

「バックエンド部会」第 57 回全体会議 議事録

日時:2022 年 9 月 7 日(水)12:05～12:40

会場:日本原子力学会「2022 年秋の大会」A 会場(E1 棟 1F 10 番教室)

議事内容

1. 佐々木部会長挨拶

2. 2022 年度活動中間報告

2.1 企画報告

2.1.1 企画 A

①バックエンド部会 企画セッション

2022 年秋の大会

バックエンド部会主催の企画セッションとして「福島第一原子力発電所の廃炉に伴って発生する廃棄物の現状と今後一将来を見据えた取り組みと課題発見」をこの全体会議のすぐ後に開催することを報告した。プログラムは以下の通りである(敬称略)。

・9 月 7 日(水)13:00-14:30 座長:井口 幸弘(福井大)		
バックエンド部会 企画セッション 「バックエンドに関する技術開発の取り組みと将来展開」		
(1) 日本原子力研究開発機構におけるバックエンド関連技術開発のこれまでと将来	(JAEA)	目黒 義弘
(2) 廃止措置技術開発の方向性-エンドステートに必要なもの	(北大)	渡邊 直子
(3) 廃止措置技術開発の方向性-実務担当者の立場から-	(清水建設)	鳥居 和敬
(4) パネル討論: バックエンドに関する技術開発の将来展開	パネリスト: (JAEA)	目黒 義弘
	(北大)	渡邊 直子
	(清水建設)	鳥居 和敬

2023 年春の年会

2023 年 3 月 13 日(月)～15 日(水)に東京大学駒場キャンパスで開催される 2023 年春の年会での企画セッションについて、企画のアイデア・希望を運営委員まで連絡するよう依頼した。

②プログラム編成

2022 年秋の大会のプログラム編成について、以下の編成委員のご尽力を得たことを報告した。

コード	専門分野	WG リーダー	WG メンバー(敬称略)
505-1	放射性廃棄物処理	金山 文彦(JAEA)	有馬立身(九大) 川崎大介(福井大)
505-2	放射性廃棄物処分と環境	尾上 博則(NUMO)	金山文彦(JAEA) 近藤陽太(日立 GE) 桜木智史(原環センター)
505-3	原子力施設の廃止措置技術	中村 保之(JAEA)	千田太詩(東北大) 中村保之(JAEA) 早野明(JAEA)

③専門委員会

原子力学会が NUMO より委託を受けている「地層処分のセーフティケースに係る様々なステークホルダーを対象とした理解促進に関する方法の検討」に関する特別専門委員会の活動報告を行った。委員会の設置期間と検討内容は以下の通りである。

- ・ 設置期間：2021年9月～2024年3月
- ・ 地層処分に特有の概念や用語に対する専門家間の認識のずれ、セーフティケースの分かりにくさの原因を整理
- ・ 上記を解消するための重要な用語の解説、コミュニケーション上の配慮事項等を取りまとめ、実践を通じてコミュニケーションのための知識ベースを構築

2.1.2 企画 B

第 38 回バックエンド夏期セミナーの開催実績を報告した。

日 時:2022年8月25日(木)、26日(金)

場 所:ハイブリッド開催(会場:AP 東新宿、Zoom)

参加者:25日92名(対面29名、オンライン63名)、26日98名(対面22名、オンライン76名)

テーマ:ハイブリッドでの新たな交流の形ー放射性廃棄物の管理について考えるー

セミナーの実施内容は以下のとおりである(敬称略)。

<1日目:有料セッション>

参加者:92名(対面29名、オンライン63名)

講演:7件

原子力規制庁:志間正和、青木広臣、菅生智、大塚伊知郎

電気事業連合会:林 宏二

ONDRAF/NIRAS(ベルギー):Dr. Christophe Depaus

日本原子力研究開発機構:笹尾英嗣

資源エネルギー庁:北村 暁

原子力発電環境整備機構:林 隆正

ポスターセッション:6件

ポスター、ショートプレゼンテーション、ブレイクアウトルームでの意見交換、質疑応答を実施。後日、優秀ポスター賞を決定し、春の年会で表彰を行う。

<2日目:無料セッション、原子力安全部会・バックエンド部会合同セッション[共催]>

参加者:98名(対面22名、オンライン76名)

講演:1件

原子力発電環境整備機構:梅木博之

パネルディスカッション

座長:小畑政道(ベクトル)

パネリスト:中村秀夫(日本原子力研究開発機構)

杉山大輔(電力中央研究所)

糸井達哉(東京大学)

小林大志(京都大学)

見学会: 東京都下水道局千代田幹線施設

- ・講演再録, セミナー参加記が部会誌次号に掲載される予定
- ・夏期セミナー参加者へのアンケート結果(速報版)を報告した。夏期セミナーの内容は、全体的に良かった、安全部会と共催のパネルディスカッションについても多くの方に興味深いという評価をいただいた。また、今後の開催形態については、対面でもオンラインでも参加したいという意見が多数を占めた。希望する講演内容についても、様々な意見をいただき、今後の参考とする。

2.1.3 企画 C

ポジション・ステートメント WG (PSWG) と EAFORM2022 について報告した。

PSWG (Position Statements WG)

ポジション・ステートメントのより一層の認知度向上及び、タイムリーな PS 発信を目指して、PS の枠組みやプロセスの見直しについて WG にて協議を実施した。現在、規定類等理事会に提出する見直し案を作成中である。広報委員会の意見聴取まで済んでおり、9 月末の理事会での審議を予定している。

また、バックエンド部会から提案している PS は、「ガラス固化体の性能」、「廃棄物埋設の放射線防護に関する国際的な考え方について」、「クリアランス」、「高レベル放射性廃棄物の地層処分」の 3 つであり、見直し版の規定類の承認後に、区分見直し等の作業を予定している。

EAFORM2022

今年度、韓国にて開催することが決定している。日程・会場は以下の通りとなり、この情報は、BE 部会の HP で紹介している。なお、参加申し込みは、9/16(早期申込:9/15)となっている。

日程: 2022/10/26(水)～28(金)

会場: Jeju Shinhwa World Landing Convention Center(韓国)

2.2 広報報告

部会 HP 小委員会活動, R4 年度週末基礎講座の開催概要について報告した。

①部会 HP 小委員会の活動について(3/8～8/31)は以下のとおりである。

(1) 部会ホームページの管理・運用 ([http:// nuce.aesj.or.jp](http://nuce.aesj.or.jp))

- 第 55 回及び第 56 回バックエンド部会全体会議資料及び議事録の掲載
- 部会長あいさつ(2022 年 4 月)の掲載・部会誌バックエンド研究 No.29 No.1 発行の掲載
- 2021 年度部会表彰の掲載・第 38 回バックエンド夏期セミナー[開催案内]の掲載
- 秋の大会企画セッション情報の掲載

(2) バックエンド部会情報メールサービス(メーリングリストによる情報連絡)

配信実績: R4 度上期 15 件(3/8～9/1), 配信先 428 名(9/1 現在)

お知らせとお願い

メール配信開始/停止, アドレス変更は部会員からの申告によって行います。(部会加入と連携していません)

配信エラーが続くと自動的に配信停止となります。

メール配信ご希望の方, アドレスの変更があった方は広報担当までお知らせください。

e-mail : info@nuce.aesj.or.jp (部会ホームページをご覧ください)

(3) ホームページ小委員会メンバーの紹介

現在のホームページ小委員会のメンバーは以下のとおりである。

氏名	所属	来歴	役割
山口 正秋	原子力機構	広報委員(2019～)	HP 更新, メール配信等の窓口, 運営小委員会との連絡調整
榊原 哲朗	原子力機構	広報委員(2020～)	同上
佐々木 隆之	京都大学		運営全体の俯瞰, 企画・提案
笹川 剛	原子力機構		部会情報メール メーリングリスト管理, メール配信
佐原 聡	原環センター		HP サーバー運用・管理(主担当)
平野 史生	原子力機構		HP サーバー運用・管理

②R4 年度週末基礎講座

週末基礎講座の開催目的と趣旨は以下のとおりである。

- ▶ 放射性廃棄物の処理処分などの原子力に関するバックエンド分野の基礎的な知識を身につけていただくことを目的として開催いたします。また、参加者相互の交流の機会を提供するものです。
- ▶ 当分野に興味をお持ちの学生の皆さまや、新たに業務や研究に携わる方々だけでなく、すでにこの分野でご活躍の方々に、改めて関連する知識を確認されたい方など、広くご参加いただけます。
- ▶ 本年度は3年ぶりの対面開催を予定しています(新型コロナウイルスの感染状況により、オンライン開催への変更の可能性もあります)。

また、今年度の開催日時と場所は次のとおりである。なお、週末基礎講座の詳細については、9月下旬を目途に部会ホームページおよび部会メール情報サービスにて案内予定である。

日 程: 令和4年 10 月 21 日(金)13:00 頃～22 日(土)17:00 頃(予定)

場 所: 東海村アイヴィル(茨城県那珂郡東海村)(予定)

参加費: 未定

2.3 出版報告

部会誌「原子力バックエンド研究」の発行状況と出版小委員会体制について報告した。

①部会誌「原子力バックエンド研究」について

部会誌「原子力バックエンド研究」Vol.29No.1(内容は以下に示す)をウェブサイトで公開中である。部会誌への投稿をお願いした。

	著者名(敬称略)	
巻頭言	杉山大輔	部会をとことんご利用ください 再び
技術報告	関美沙紀	放射性アルミニウム廃棄物の安定化処理技術の開発
資料	中林亮 他	放射線性廃棄物処分場の施設設計における ALARA と BAT の在り方スウェーデンの事例調査一
特集: 日本原子力学会 2021 秋の大会バックエンド部会企画セッション		

会議参加記	大塚拓	地層処分に関する安全コミュニケーション
講演再録	草野由貴子	なぜ、地層処分なのか？ーセーフティケースの役割
	藤山哲雄	セーフティケースへの情報統合ーNUMO 包括的技術報告書を例として
	バックエンド部会 運営小委員会	安全コミュニケーションに関するパネル討論
特集:2021 年度バックエンド週末基礎講座		
会議参加記	茅根麻里奈	「2021 年度バックエンド週末基礎講座」参加報告
講演再録	山口正秋	バックエンド週末基礎講座地層処分研究の概要について
	吉田芙美子	地層処分事業の進め方
	坂井章浩	研究施設等廃棄物の放射能インベントリの特徴
	竹野竜平	2021 年度バックエンド週末基礎講座分かりやすい地層処分 Q&A を考える (オンラインディスカッション)
会合		2021 年度バックエンド部会表彰 バックエンド部会関連行事予定

②出版小委員会体制について

出版小委は以下の 15 名体制であり、役割分担は以下のとおりである。

担当	仕事概要	2020 年度担当者(敬称略)
編集長	全体の工程管理	川崎大介(福井大)
副編集長	査読付き論文ハンドリング	鷹尾康一郎(東工大)
委員長	全体の取り回し、運営小委・学会事務局との連絡	藤社進(IHI)
	査読なし原稿ハンドリング	
副委員長	委員長補佐+工程管理補助	中林亮(電中研)
出版幹事	原稿(査読あり原稿は査読終了後、査読なし原稿は受領後)の出版(先行公開および部会誌)に向けての事務的仕事の統括	関口高志(戸田建設)
編集幹事	レイアウトを統括	北城諒一(日本原燃)
レイアウト	レイアウトの実施、原稿のレイアウト確認	西尾光(NUMO)
		湊大輔(電中研)
		中島均(清水建設)
		山田淳夫(安藤・間)
CD 化 J Stage	CD 化、J-Stage、会計を統括	山口正秋(JAEA)
	論文の CD 化	山田文香(RWMC)
	査読付き論文等の J-stage への登録	邊見光(JAEA)
会計	支出、収入の会計処理	清水洋平(ダイヤ)
HP	HP 関連	古川静枝(電中研)

2.4 庶務報告

海外発表助成制度、研究会支援制度、優秀講演賞について報告した。

①海外発表助成制度

- ・若手研究者の海外発表に関する渡航滞在費を助成
- ・半期あたり原則1名を対象に13.5万円を限度に助成
- ・詳しくは部会ホームページに掲載の募集要領を参照
- ・2021年度実績
 - 上期分(2月10日締切) 応募なし
 - 下期分(8月10日締切) 応募なし
- ・2022年度実績
 - 上期分(2月10日締切) 応募なし
 - 下期分(8月10日締切) 下期分(8月10日締切)応募1件
 - ・京都大学大学院博士課程1年(IYNC2022, 日本)

②研究会支援制度

- ・部会員から研究テーマを公募して研究会を設置
- ・研究会の費用を年間13.5万円までを目安に支給
- ・会期は最長3年とし、適宜成果を取りまとめて発表
- ・詳しくは部会ホームページに掲載の募集要領を参照
- ・2021年度実績:応募なし
- ・2022年度実績:8月末時点で応募なし

③優秀講演賞

- ・学優秀講演賞を1名選出
(学生会員対象とした学生優秀講演賞は該当なし)

	バックエンド対象講演数*	内,学生会員 講演数
2022年 秋の大会	129	28
2022年 春の年会	76	25
2021年 秋の大会	107	25
2021年 春の年会	77	23

※「放射性廃棄物」、「廃炉(廃止措置)」、「地層処分」のいずれかのワードを含む一般セッションにおける発表

- ・各座長の採点結果に基づき、本大会における学生優秀講演賞、優秀講演賞を選出
⇒2022年春の年会、秋の大会の優秀講演賞を2023年春の年会全体会議において表彰予定

2.5 会計報告

会計から全体収支、通常予算およびセミナー予算について報告を行った。

①全体収支

全体収支

参照:

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
通常予算	424,000	通常予算	10,246
セミナー予算	0	セミナー予算	287,100

<合計>	424,000	297,346
<当初予算額>	2,368,000	2,368,000
<執行率>	18%	13%
<収支>		126,654

円

- 収入の部：BE 部会会費収入は予算通り。夏期セミナー参加費収入は7月末時点で無し（精算中につき今後計上）。
- 支出の部：BE 部会サーバー代等、夏期セミナー会議室レンタル代。
- 上期(4月～9月)の、全体収支は現時点で黒字。夏期セミナーの実績を反映予定

②通常予算

通常予算収支

参照

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
受取掲載料	66,000	旅費交通費	0
受取配分金	358,000	通信運搬費	5,406
		消耗品費	0
		一般外注経費	4,840
		諸謝金	0
		雑費	0
		支払助成金(事)	0

<小計>	424,000	10,246
<当初予算額>	608,000	915,000
<執行率>	70%	1%
<収支>		413,754

円

- 収入の部：受取配分金（BE 部会会費）は予算通り。7月発行部会誌への論文掲載・受取掲載料が少なく、当初予算額よりも収入は若干少ない。
- 支出の部：部会HP用レンタルサーバー代、部会誌への論文掲載時の J-stage 登録費などの定例的な支出。
- 上期(4月～9月)の支出は少なく、通常予算は現時点で黒字。支出の多い下期の予算執行に留意して、引き続き適切な予算管理に努める。

③セミナー予算

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
受取参加費	0	会議費	287,100
		通信運搬費	0
		消耗品費	0
		一般外注経費	0
		出展費	0
		賃借料	0
		雑費	0
<小計>			287,100
<当初予算額>		1,760,000	1,453,000
<執行率>		0%	20%
<収支>			-287,100

円

- 収入の部：7月末の経理月次資料では、夏期セミナーの参加費収入が未反映のため収入無し（ただし、合計 88 名の参加費収入が今後計上される。）
- 支出の部：夏期セミナーの会議室レンタル費。ハイブリット開催により、講師旅費などの支出が抑えられた。
- 上期(4月～9月)のセミナー予算は現時点では赤字。しかし、夏期セミナーの参加費収入実績の反映によって大幅な赤字にはならない見込み（精算中）。今後も支出の削減に努め、年度収支としても黒字化を志向中。

2.6 審議事項

なし

以上